

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

資料 1	リクルート進学総研 マーケットリポート 2022【全国版】	2
資料 2	新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	4
資料 3	リクルート進学総研 マーケットリポート 2024【全国版】	5
資料 4	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2）	7
資料 5	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）	8
資料 6	甲南大学大学院自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」 （仮称、設置構想中）に関する入学意向調査アンケート結果	10
資料 7	調査票【入学意向用（修士課程）】	16
資料 8	調査用資料	18
資料 9	調査票【入学意向用（博士後期課程）】	29
資料 10	調査票【採用意向用】	31
資料 11	甲南大学大学院自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」 （仮称、設置構想中）に関する採用意向調査アンケート結果	34

【全国版】

18歳人口予測

大学・短期大学・専門学校進学率

地元残留率の動向

【将来予測 2022～2034年】

■ 18歳人口予測 P3～P8

- ・ 2022年112.1万人→2034年100.6万人（11.5万人減少）
- ・ 東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・ 2022年比減少率が高いのは東北（80.9%）、減少数が大きいのは近畿（22,958人減）

【経過推移 2013年～2022年】

■ 進学率（現役・過年度含）の推移 P9～P15

大学進学率（現役）

- ・ 2013年47.4%→2022年55.3%（7.9ポイント上昇）
- ・ 上昇が大きいのは、1位 北海道（135.3）、2位 四国（120.4）、3位 東北（118.3）※注
- ・ 進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・ 2013年5.4%→2022年3.7%（1.7ポイント低下）
- ・ 低下が大きいのは、1位 南関東（62.5）、2位 東海（63.2）、3位 近畿（65.6）※注
- ・ 進学率が高いのは、北陸、甲信越、東北

専門学校進学率（現役）

- ・ 2013年17.0%→2022年16.7%（0.3ポイント低下）
- ・ 上昇が大きいのは、1位 東海（104.2）、2位 北関東（102.2）、3位 九州沖縄（102.1）。※注
- ・ 進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2022年）

- ・ 大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は新潟

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2013～2022年）

- ・ 2022年現役と過年度含の進学率の差は、大学は1.3ポイント（過年度含が高い）
- ・ 短期大学は差なし

注）※の（）内の数値は、2013年を100としたときの2022年の指数

■ 地元残留率の推移 P16～P24

- ・ 大学入学者の地元残留率は、2013年43.4%→2022年44.8%（1.4ポイント上昇）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率は、2013年68.8%→2022年71.8%（3.0ポイント上昇）
- ・ 大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.6%）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（93.1%）

■ 18歳人口減少率×地元残留率 P25・26

- ・ 大学入学者：都道府県別：2022→2034年
- ・ 短期大学入学者：都道府県別：2022→2034年

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

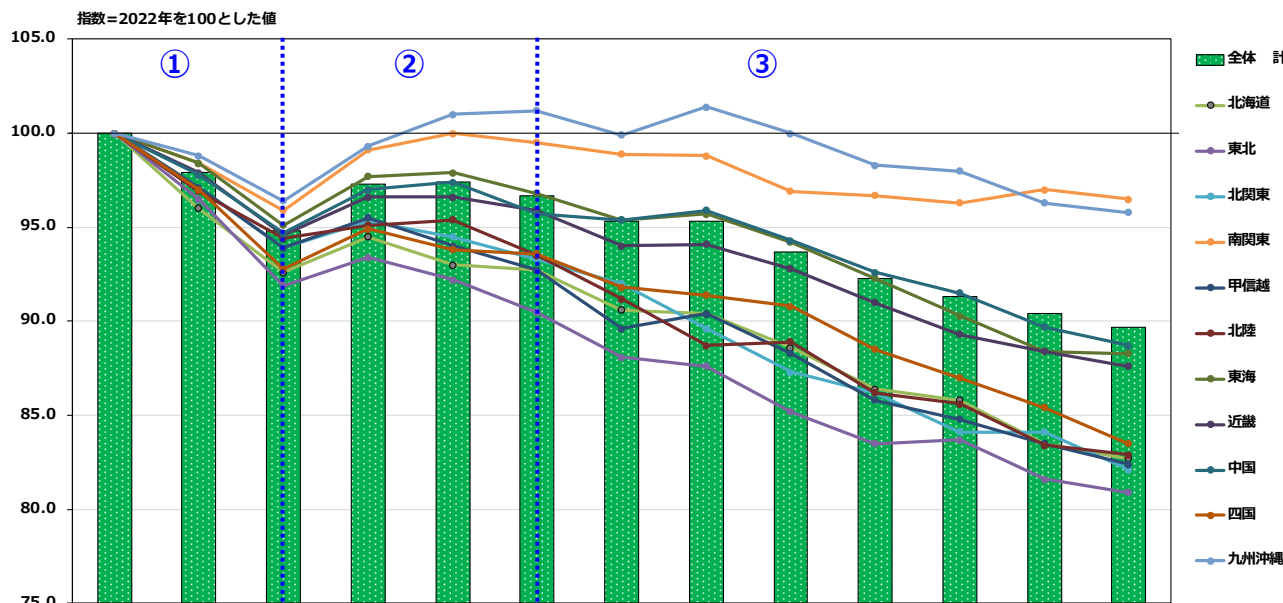
18歳人口予測（全体：エリア別：2022～2034年）

■ 減少率が高いのは東北（2022年比80.9%）、減少数が大きいのは近畿（22,958人減）

- ・減少率が高いのは、1位 東北（2022年比80.9%）、2位 北関東（82.1%）、3位 甲信越（82.4%）。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿（22,958人減）、2位 東海（16,427人減）、3位 東北（14,899人減）。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東（96.5%）、2位 九州沖縄（95.8%）、3位 中国（88.7%）。
- ・エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

- ① 2022～2024年：全国では約6万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
- ② 2024～2027年：全国で約3万人増加、人口が回復し、横ばいが続く時期
- ③ 2027～2034年：回復後さらに減少する時期

注) 減少率 = 2034年人数 ÷ 2022年人数で算出。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
全体 計	人数	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,647	1,084,271	1,068,477	1,068,876	1,050,143	1,034,714	1,023,592	1,013,581	1,005,782
	指数	100.0	97.9	94.8	97.3	97.4	96.7	95.3	90.6	90.4	88.6	86.4	85.8	82.7
北海道	人数	44,276	42,489	41,008	41,857	41,166	41,045	40,121	40,037	39,230	38,255	37,984	36,989	36,601
	指数	100.0	96.0	92.6	94.5	93.0	92.7	90.6	90.4	88.6	86.4	85.8	83.5	82.7
東北	人数	78,146	75,379	71,820	73,013	72,013	70,749	68,816	68,461	66,576	65,266	65,444	63,794	63,247
	指数	100.0	96.5	91.9	93.4	92.2	90.5	88.1	87.6	85.2	83.5	83.7	81.6	80.9
北関東	人数	63,720	61,863	59,826	60,700	60,209	59,436	58,597	57,094	55,597	54,919	53,598	53,611	52,331
	指数	100.0	97.1	93.9	95.3	94.5	93.3	92.0	89.6	87.3	86.2	84.1	84.1	82.1
南関東	人数	299,356	294,497	287,188	296,737	299,307	297,845	296,090	295,868	290,004	289,532	288,232	290,267	288,970
	指数	100.0	98.4	95.9	99.1	100.0	99.5	98.9	98.8	96.9	96.7	96.3	97.0	96.5
甲信越	人数	46,907	45,536	44,069	44,788	44,075	43,470	42,033	42,422	41,416	40,263	39,768	39,150	38,628
	指数	100.0	97.1	93.9	95.5	94.0	92.7	89.6	90.4	88.3	85.8	84.8	83.5	82.4
北陸	人数	27,545	26,692	26,002	26,197	26,268	25,761	25,131	24,428	24,501	23,757	23,588	22,974	22,842
	指数	100.0	96.9	94.4	95.1	95.4	93.5	91.2	88.7	88.9	86.2	85.6	83.4	82.9
東海	人数	140,510	138,309	133,555	137,302	137,529	136,069	134,013	134,491	132,337	129,727	126,930	124,204	124,083
	指数	100.0	98.4	95.1	97.7	97.9	96.8	95.4	95.7	94.2	92.3	90.3	88.4	88.3
近畿	人数	185,626	181,639	175,609	179,388	179,313	178,046	174,431	174,633	172,217	168,955	165,722	164,183	162,668
	指数	100.0	97.9	94.6	96.6	96.6	95.9	94.0	94.1	92.8	91.0	89.3	88.4	87.6
中国	人数	66,821	65,318	63,279	64,828	65,075	63,981	63,747	64,054	62,988	61,849	61,110	59,931	59,298
	指数	100.0	97.8	94.7	97.0	97.4	95.7	95.4	95.9	94.3	92.6	91.5	89.7	88.7
四国	人数	33,841	32,825	31,419	32,132	31,757	31,685	31,073	30,944	30,731	29,957	29,437	28,906	28,242
	指数	100.0	97.0	92.8	94.9	93.8	93.6	91.8	91.4	90.8	88.5	87.0	85.4	83.5
九州沖縄	人数	134,537	132,869	129,676	133,620	135,935	136,184	134,425	136,444	134,546	132,234	131,779	129,572	128,872
	指数	100.0	98.8	96.4	99.3	101.0	101.2	99.9	101.4	100.0	98.3	98.0	96.3	95.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1	兵庫県	12,879人	47.6%
2	大阪府	4,702人	17.4%
3	京都府	717人	2.6%
4	岡山県	593人	2.2%
5	広島県	541人	2.0%
	全体	27,084人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	兵庫県	96.57%	93.81%	95.27%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	理・工学系（大学）	104.35%	101.88%	99.39%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

【全国版】

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2024～2036年】

■ 18歳人口予測 P3～P8

- ・ 2024年106.3万人→2036年94.2万人（12.1万人減少）
- ・ 東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・ 2024年比減少率が高いのは東北（80.4%）、減少数が大きいのは近畿（22,590人減少）

【経過推移 2015年～2024年】

■ 進学率（現役・過年度含）の推移 P9～P22

大学進学率（現役）

- ・ 2015年48.9%→2024年58.4%（9.5ポイント上昇）
- ・ 1位 北海道（134.8）、2位 四国（123.3）、3位 東北（122.3）※注
- ・ 進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・ 2015年5.2%→2024年3.1%（2.1ポイント低下）
- ・ 低下が大きいのは、1位 南関東（50.0）、2位 近畿（54.2）、3位 東海（55.6）※注
- ・ 進学率が高いのは、北陸、甲信越、東北、九州沖縄

専門学校進学率（現役）

- ・ 2015年16.7%→2024年15.4%（1.3ポイント低下）
- ・ 低下が大きいのは、1位 四国（87.3）、2位 南関東（88.2）、3位 近畿（90.5）※注
- ・ 進学率が高いのは、北海道、甲信越、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2024年）

- ・ 大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2015～2024年）

- ・ 2024年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.7ポイント（過年度含が高い）
- ・ 短期大学は差なし。専門学校は8.6ポイント（過年度含が高い）
- ※注）（）内の数値は、2015年を100としたときの2024年の指数

■ 地元残留率の推移 P23～P31

- ・ 大学入学者の地元残留率は、2015年43.6%→2024年44.8%（1.2ポイント上昇）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率は、2015年69.0%→2024年71.9%（2.9ポイント上昇）
- ・ 大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.4%）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（94.3%）

■ 18歳人口減少率×地元残留率 P32・33

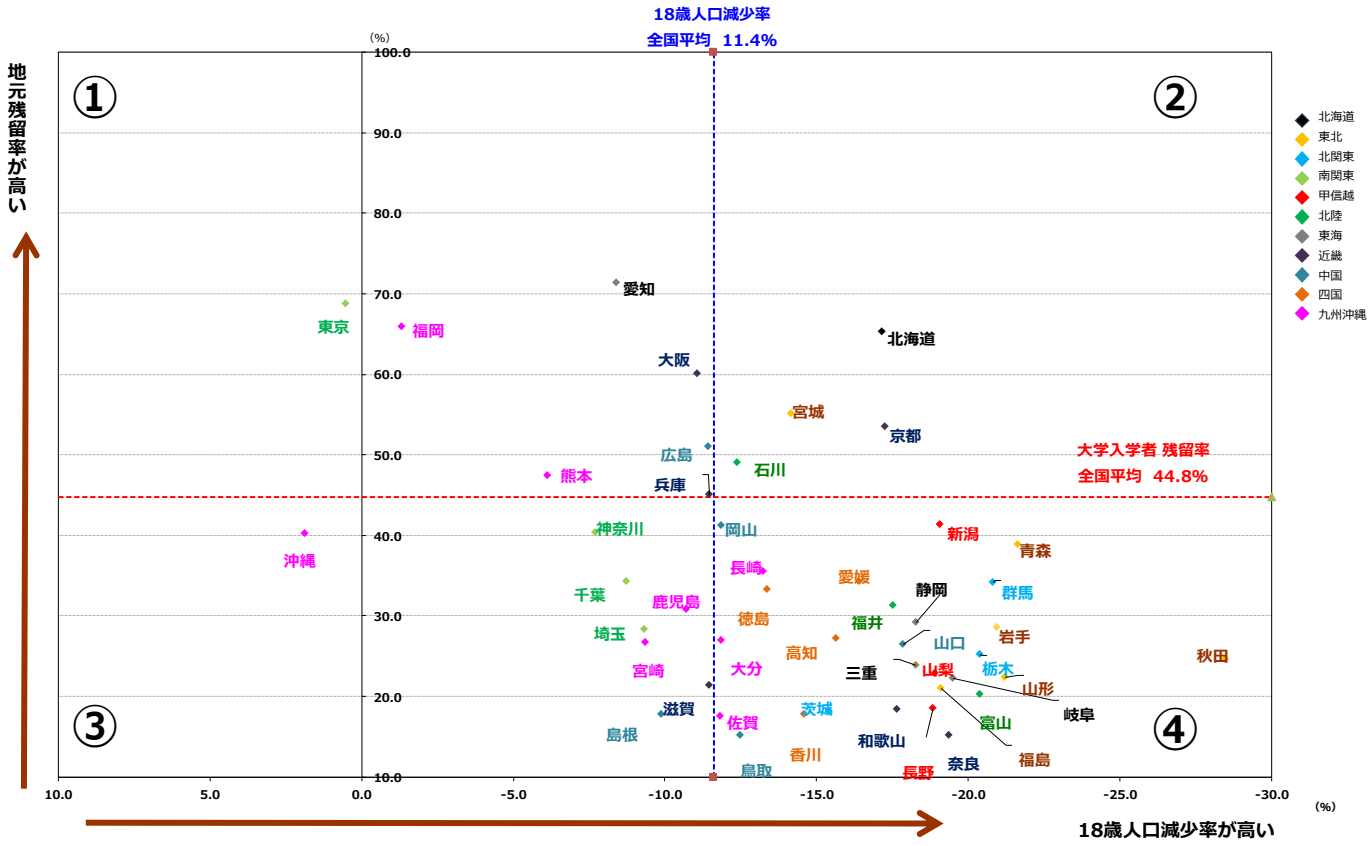
- ・ 大学入学者：都道府県別：2024→2036年
- ・ 短期大学入学者：都道府県別：2024→2036年

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

■「象限④」(18歳人口減少率が高く地元残留率が低い)に多くの県が集まる

・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下の通りになる。

- 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い**
 : 東京、福岡、熊本、愛知、大阪、広島、兵庫
 →人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
- 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い**
 : 北海道、京都、宮城、石川
 →18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
- 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い**
 : 沖縄、神奈川、千葉、埼玉、宮崎、島根、鹿児島、滋賀
 →人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
- 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い**
 : その他の県
 →人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙 2

大学学部学科等名：甲南大学理工学部機能分子化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	4人	4人	6人	6人	10人	6人	
	延べ人数	志願者数	22人	13人	11人	44人	89人	36人
		受験者数	22人	13人	11人	36人	87人	34人
		合格者数	6人	7人	7人	27人	63人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	22人	13人	11人	31人	64人	28人
		受験者数	22人	13人	11人	25人	63人	27人
		合格者数	6人	7人	7人	19人	43人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	4人	5人	4人	13人	24人	10人	
	学校推薦型選抜	募集人数	6人	6人	5人	5人	3人	5人
		延べ人数	志願者数	21人	8人	11人	15人	15人
受験者数			21人	8人	11人	15人	15人	14人
合格者数			21人	8人	11人	15人	15人	14人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	21人	8人	11人	15人	15人	14人
		受験者数	21人	8人	11人	15人	15人	14人
		合格者数	21人	8人	11人	15人	15人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		21人	8人	11人	15人	15人	14人	
一般選抜		募集人数	46人	46人	46人	46人	44人	46人
		延べ人数	志願者数	729人	470人	515人	490人	501人
	受験者数		710人	463人	491人	469人	475人	522人
	合格者数		264人	320人	314人	243人	211人	270人
	うち追加合格者数		30人	88人	61人	9人	25人	43人
	辞退者数		4人	4人	0人	1人	1人	2人
	実人数	志願者数	279人	190人	215人	190人	197人	214人
		受験者数	273人	188人	205人	181人	186人	207人
		合格者数	135人	152人	166人	133人	116人	140人
		うち追加合格者数	11人	30人	33人	6人	13人	19人
		辞退者数	4人	4人	0人	1人	1人	2人
	入学者数	40人	45人	52人	29人	25人	38人	
	共通テスト利用入試	募集人数	4人	4人	3人	3人	3人	3人
		延べ人数	志願者数	92人	48人	71人	76人	62人
受験者数			91人	48人	71人	76人	61人	69人
合格者数			14人	25人	26人	30人	21人	23人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	1人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	92人	48人	69人	73人	60人	68人
		受験者数	91人	48人	69人	73人	59人	68人
		合格者数	14人	25人	26人	29人	20人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
入学者数		0人	0人	1人	1人	1人	1人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	2人	1人	1人	2人	0人
	受験者数		2人	0人	0人	1人	0人	1人
	合格者数		0人	0人	0人	1人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	1人	0人	2人	0人	1人
		受験者数	2人	0人	0人	1人	0人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	60人	60人	60人	60人	60人	60人
		延べ人数	志願者数	866人	540人	609人	627人	667人
受験者数			846人	532人	584人	597人	638人	639人
合格者数			305人	360人	358人	316人	310人	330人
うち追加合格者数			30人	88人	61人	9人	25人	43人
辞退者数			5人	5人	0人	1人	1人	2人
実人数		志願者数	416人	260人	306人	311人	336人	326人
		受験者数	409人	257人	296人	295人	323人	316人
		合格者数	176人	192人	210人	197人	194人	194人
		うち追加合格者数	11人	30人	33人	6人	13人	19人
		辞退者数	5人	5人	0人	1人	1人	2人
入学者数		65人	58人	68人	58人	65人	63人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60人
入学定員充足率	1.08	0.97	1.13	0.97	1.08	1.05
歩留率	0.21	0.16	0.19	0.18	0.21	0.19

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：甲南大学自然科学研究科化学専攻（修士課程）の志望者層におけるキャリアガイダンスへの参加状況

	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試（予測）	取組概要と入学数等に関する分析
参加者等総数 (a)		47人	38人	<p>①取組概要 化学専攻の基礎となる機能分子化学科において、2年次及び3年次の学生を対象にキャリアガイダンスを毎年度開催し、卒業後の進路として就職や大学院進学などの選択肢があることを説明し、自身の進路を考える機会としている。キャリアガイダンスでは、理系学部においては大学院進学が将来的な進路として重要な意味を持つことをはじめ、大学院での学びの内容、大学院生の経験談、入試制度概要、奨学金制度等について説明し、大学院進学を促す機会としている。</p> <p>②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学数等の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 キャリアガイダンスの取組としては、R5年度から2・3年次を対象に実施しているため、R7年度入試の実績値のみとなるが、R5年度に3年次47名を対象に実施し、そのうち16名（34.0%）が受験、14名（29.8%）が入学しており、化学専攻の定員（12名）を十分に充足できている。 R6年度においても、2・3年次を対象に同様の取組を実施し、3年次38名が参加したこと、（またR5年度の2年次対象説明会では58名の参加があったこと）から、R7年度入試と同様の割合で受験・入学すると想定すると13名（34.0%）が受験、11名（29.8%）が入学すると考えられる。 また、環境・エネルギー工学専攻の専任教員は、化学専攻の専任教員12名のうち4名が移籍することから、卒業研究での指導を踏まえ、化学専攻入学者のうち3分の1が環境・エネルギー工学専攻への入学を希望すると想定すると、3名が入学すると考えられ、環境・エネルギー工学専攻の入学定員を充足する見込むことができる。</p>
うち受験対象者数 (b)		47人	38人	
うち受験者数 (c)		16人	13人	
うち入学者数 (d)		14人	11人	
(受験率 c/b)		34.0%	34.2%	
(入学率 d/b)		29.8%	28.9%	

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：甲南大学自然科学研究科生命・機能科学専攻（博士後期課程）の志望者層への進路個別相談

	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R8年度入試（予測）	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	16人	28人	18人	39人	<p>①取組概要 化学専攻修士課程2年次の学生を対象に、研究指導教員を通じて修了後の進路について個別相談を行い、このなかで、進学を希望する学生には博士後期課程での学びや学位取得に向けてのプロセス等について説明し、博士後期課程への進学を促す機会としている。</p> <p>②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 R7年度の参加者予測数39人のうち、化学専攻修士課程2年次の学生は22人であり、2年間の入学率の平均4.3%と同様の割合で入学した場合、博士後期課程への進学者1人を見込むことができる。また、R6年度の化学専攻修士課程1年次の学生に対して入学意向調査アンケートを実施し、12人のうち1人（8.3%）から本専攻に進学を希望する結果が得られており、これらから、R8年度の入学定員の充足が見込まれる。 R8年度の化学専攻2年次の学生は14人となる見込みであり、8%を目標として環境・エネルギー工学専攻博士後期課程への進学を図ることにより、R9年度の入学定員の充足が見込まれる。 また、R10年度以降は、本専攻修士課程修了者の受入れ開始により、内部進学の対象が既設の化学専攻に環境・エネルギー工学専攻修士課程の入学定員3人を加えた15人となるため、中長期的に安定した入学者の確保を見込むことができる。</p>
うち受験対象者数(b)	16人	28人	18人	39人	
うち受験者数(c)	0人	2人	0人	2人	
うち入学者数(d)	0人	2人	0人	2人	
(受験率 c/b)	0.0%	7.1%	0.0%	5.1%	
(入学率 d/b)	0.0%	7.1%	0.0%	5.1%	

●甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻（修士課程）」（仮称、設置構想中）
に関する入学意向調査アンケート

調査対象	甲南大学 理工学部 機能分子化学科 3年生	
調査方法	配布・回収	
調査対象数	依頼数	55名
	回収数（回収率）	55名
調査時期	2024年11月	
調査項目	・現状 ・大学卒業後の希望進路 ・希望する大学院の設置者 ・興味のある学問分野 ・甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻（修士課程）」への受験意向 ・甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻（修士課程）」への入学意向	
調査実施機関	甲南大学	

**甲南大学大学院 自然科学研究科『環境・エネルギー工学専攻（修士課程）』
（仮称、設置構想中）に関する入学意向調査アンケート結果**

Q.1 あなたの現状についてお答えください。

「大学3年生」（98.2%）が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
大学1年生	0	0
大学2年生	0	0
大学3年生	54	98.2
大学4年生	1	1.8
社会人	0	0
その他	0	0
合計	55	100

Q.2 大学卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

「大学院進学」（53.3%）が最も多い。次いで「就職」（45%）が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
大学院進学	32	53.3
専門職大学院進学	0	0
専門学校進学	0	0
就職	27	45
その他	1	1.7
合計	60	100

Q.3 大学院への進学を考えている場合、希望の進路（志望する設置者）をどのように考えていますか。（複数選択可）

「私立」（58.3%）が最も多い。次いで「国立」（25%）が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
私立	28	58.3
国立	12	25
公立	8	16.7
合計	48	100

Q.4 大学を卒業後に学びたいと考えている学問分野についてお答えください。（複数選択可）

「化学」（31.4%）が最も多い。次いで「応用化学」（21.4%）が多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
環境工学	24	17.1
エネルギー工学	28	20
物理工学	3	2.1
応用化学	30	21.4
物理学（天文学を除く）	0	0
天文学	0	0
化学	44	31.4
地学	0	0
その他工学（土木建築工学など）	0	0
その他理学（数学、生物学など）	1	0.7
人文科学（文学、史学、哲学など）	1	0.7
社会科学（法学、経済学など）	0	0
農学（農学、林学、水産学など）	0	0
保健（医学、薬学、看護学など）	2	1.4
その他	7	5
合計	140	100

Q.5 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻（修士課程）への受験を希望しますか。

「第一志望として受験する」が42.6%であった。

回答項目	回答数	回答率(%)
第一志望として受験する	23	42.6
第二志望として受験する	7	13
第三希望以降として受験する	0	0
受験しない	24	44.4
合計	54	100

Q.6 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻（修士課程）を受験して合格した場合、

入学を希望しますか。

「入学する」が66.7%であった。

回答項目	回答数	回答率(%)
入学する	24	66.7
志望順位が上位の他の志望校が 不合格の場合に入学する	7	19.4
入学しない	5	13.9
合計	36	100

クロス集計結果

回答者数（合計）	55名
Q.1 現状 ・大学3年生	上記回答数のうち 54名
Q.2 修了後の進路 ・大学院進学	上記回答数のうち 31名
Q.3 進学希望の大学院設置者 ・私立	上記回答数のうち 27名
Q.4 興味のある学問分野 ・物理学（天文学を除く） ・地学 ・化学 ・応用化学 ・物理工学 ・環境工学 ・エネルギー工学 ※新設組織に該当する学問分野いずれかを選択した者	上記回答数のうち 27名
Q.5 新設組織への受験希望有無 ・第1志望として受験する ・第2志望として受験する ・受験しない	上記回答数のうち 19名 5名 3名
Q.6 合格した場合の入学希望有無 ・入学する ・志望順位が上位の他の志望校が 不合格の場合に入学する	上記回答数のうち (第1志望) 19名 (第2志望) 1名 4名
入学見込者	19名

●甲南大学大学院 自然科学研究科『環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）』（仮称、設置構想中）
 に関する入学意向調査アンケート

調査対象	甲南大学大学院 自然科学研究科 化学専攻 修士課程1年生、修士課程2年生	
調査方法	配布・回収	
調査対象数	依頼数	16名
	回収数（回収率）	16名
調査時期	2024年11月	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・大学卒業後の希望進路 ・希望する大学院の設置者 ・興味のある学問分野 ・甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）」への受験意向 ・甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）」への入学意向 	
調査実施機関	甲南大学	

**甲南大学大学院 自然科学研究科『環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）』
（仮称、設置構想中）に関する入学意向調査アンケート結果**

Q.1 あなたの現状についてお答えください。

「大学院修士1年次」（75%）が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
大学院修士1年生	12	75
大学院修士2年生	4	25
社会人	0	0
その他	0	0
合計	16	100

Q.2 大学院修了後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

「就職」（88.2%）が最も多い。次いで「大学院（博士後期課程）進学」（11.8%）が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
大学院（博士後期課程）進学	2	11.8
専門職大学院進学	0	0
専門学校進学	0	0
就職	15	88.2
その他	0	0
合計	17	100

Q.3 大学院への進学を考えている場合、希望の進路（志望する設置者）をどのように考えていますか。（複数選択可）

「私立」（50%）が最も多い、次いで「国立」（25%）「公立」（25%）が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
私立	2	50
国立	1	25
公立	1	25
合計	4	100

Q.4 大学院を修了後に学びたいと考えている学問分野についてお答えください。（複数選択可）

「化学」（29.2%）が最も多い。次いで「応用化学」（20.8%）が多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
環境工学	4	8.3
エネルギー工学	4	8.3
物理工学	1	2.1
応用化学	10	20.8
物理学（天文学を除く）	2	4.2
天文学	3	6.3
化学	14	29.2
地学	0	0
その他工学（土木建築工学など）	2	4.2
その他理学（数学、生物学など）	2	4.2
人文科学（文学、史学、哲学など）	1	2.1
社会科学（法学、経済学など）	1	2.1
農学（農学、林学、水産学など）	0	0
保健（医学、薬学、看護学など）	3	6.3
その他	1	2.1
合計	48	100

Q.5 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）への受験を希望しますか。

「第一志望として受験する」が6.3%であった。

回答項目	回答数	回答率(%)
第一志望として受験する	1	6.3
第二志望として受験する	2	12.5
第三希望以降として受験する	0	0
受験しない	13	81.3
合計	16	100

Q.6 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻（博士後期課程）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

「入学する」が33.3%であった。

回答項目	回答数	回答率(%)
入学する	2	33.3
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1	16.7
入学しない	3	50
合計	6	100

クロス集計結果

回答者数（合計）	16名
Q.1 現状 ・大学院修士1年生	上記回答数のうち 12名
Q.2 修了後の進路 ・大学院（博士後期課程）進学	上記回答数のうち 2名
Q.3 進学希望の大学院設置者 ・私立	上記回答数のうち 2名
Q.4 興味のある学問分野 ・物理学（天文学を除く） ・地学 ・化学 ・応用化学 ・物理工学 ・環境工学 ・エネルギー工学 ※新設組織に該当する学問分野いずれかを選択した者	上記回答数のうち 2名
Q.5 新設組織への受験希望有無 ・第1志望として受験する ・第2志望として受験する	上記回答数のうち 1名 1名
Q.6 合格した場合の入学希望有無 ・入学する	上記回答数のうち (第1志望) 1名 (第2志望) 1名
入学見込者	1名

Q.4 大学を卒業後に学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください。
現在考えている学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

- ① 環境工学 ② エネルギー工学 ③ 物理工学 ④ 応用化学
- ⑤ 物理学(天文学を除く) ⑥ 天文学 ⑦ 化学 ⑧ 地学
- ⑨ その他工学(土木建築工学など) ⑩ その他理学(数学、生物学など)
- ⑪ 人文科学(文学、史学、哲学など) ⑫ 社会科学(法学、経済学など)
- ⑬ 農学(農学、林学、水産学など) ⑭ 保健(医学、薬学、看護学など)
- ⑮ その他

【ここからは、「甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻」に関する資料を併せてご確認ください。】

Q.5 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻(修士課程)が開設された場合、受験を希望しますか。現在の希望に一つだけ○をつけてください。

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する ④ 受験しない

Q.6 Q.5 で①～③を選択した方に質問です。甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻(修士課程)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。現在の希望に一つだけ○をつけてください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

～アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～

2026年4月新設予定

甲南大学大学院 自然科学研究科

環境・エネルギー工学専攻*

(修士課程・博士後期課程)



*設置構想中

*記載の内容は現在計画中の内容であり、変更する場合があります

- ➔ 甲南大学大学院 自然科学研究科
- ➔ **環境・エネルギー工学専攻**
(修士課程・博士後期課程)

	入学定員	学位
修士課程	3名	修士(理工学)
博士後期課程	1名	博士(理工学)

設置場所

岡本キャンパス(兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1)

➡ 核となる学問領域

マテリアルサイエンス（化学＋物理学＋ α ）

➡ 研究分野

環境、資源、エネルギー

（地球科学・分子機能学・界面物理化学・有機電子材料
・半導体材料・電池材料・計算科学材料・光触媒材料）

➡ 取得可能な免許

中学校教諭専修免許状（理科）

高等学校教諭専修免許状（理科）

設置の理念

甲南大学の教育精神に基づいて育成された一般的及び専門的教養を基盤として、学術の理論と応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、人類文化の向上発展と社会福祉の増進に貢献することを目的としています。

養成する人材像

環境・エネルギー工学分野において、専門的で深い知識を有し、自立して独創的な研究を行い、環境・エネルギー工学分野を開拓・深化させる能力、並びに、これらの分野に関係する高度に専門的な業務に従事するに必要な卓越した能力を身につけ、かつ、高度な倫理観を備え、国際社会で活躍できる人材を養成します。

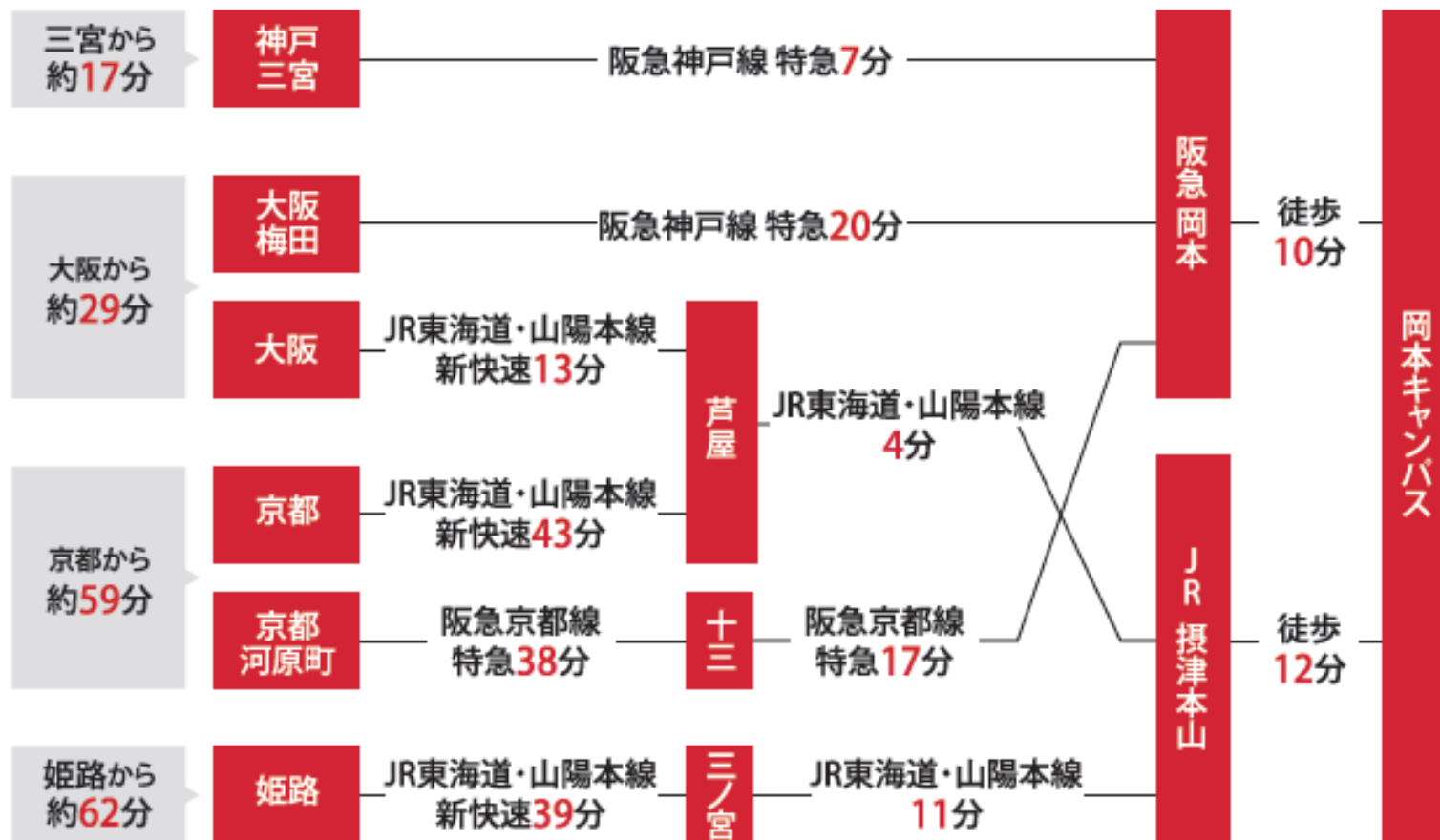
- (1) 科学分野の幅広い知識と環境・エネルギー工学分野における高度な専門的知識・技術を修得するため、大学又は相当する教育機関において、環境・エネルギー工学に関する基礎的な学力を身につけている。
- (2) 環境・エネルギー工学分野における研究・開発能力を得るために、高度で幅広い専門的知識と技術及び論理的思考力を身につけることができる。
- (3) 高度職業人又は研究者として独創性豊かで優れた研究開発能力と高い倫理観を備え、問題を発見し解決する意欲、国際社会に適応する意欲をもっている。

自然科学研究科／環境・エネルギー工学専攻 (修士課程・博士後期課程)

入学金		* 0 円
授業料		803,000 円
研究実験費		145,000 円
初年度納付金		948,000 円
総合計額	修士課程	1,896,000 円
	博士後期課程	2,844,000 円

* 甲南大学卒業生および履修証明プログラム修了生以外は、
300,000円

ACCESS <主要駅から岡本キャンパスまでの所要時間>



甲南大学

アドミッションセンター
TEL 078-435-2319(直通)
〒658-8501
兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

<https://www.konan-u.ac.jp/>

自然科学研究科



- 大阪工業大学大学院
工学研究科 化学・環境・生命工学専攻
- 公立鳥取環境大学大学院
環境経営研究科 環境学専攻
- 大阪大学大学院
工学研究科 環境エネルギー工学専攻
- 関西学院大学大学院
理工学専攻科 環境応用化学専攻
- 近畿大学大学院
総合理工学研究科 環境系工学専攻

理系の学生が学び・憩い・交流する拠点、
進化型理系の未来がここに。



[パースイメージ図] 構想中のため、今後情報に変更になる可能性があります。

岡本キャンパス
〈西・北 校舎エリア〉 2027年、新理系棟 竣工予定



アンケートへのご協力
ありがとうございます

甲南大学 理工学部
新設・改組についてもっと知る

Check!

甲南大学の理系が進化する
進化型理系 特設サイト

社会のニーズに応え、
新設・改組でさらに進化する
甲南大学 理工学部の
学びについてもっと知ろう!



甲南大学の理系を
探求する

Check!

高校生向け
理系3学部 特設サイト

社会課題から学びを
探求する「Mission」や
在校生のインタビューから
理系の学びを探究しよう!



理学・工学で未来をつくる

進め、限らない可能性のために。

KONAN進化型理系構想 始動

Q.4 大学院(修士課程)を修了後に学びたいと考えている興味のある学問分野を選択してください。

現在考えている学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

- ① 環境工学 ② エネルギー工学 ③ 物理工学 ④ 応用化学
- ⑤ 物理学(天文学を除く) ⑥ 天文学 ⑦ 化学 ⑧ 地学
- ⑨ その他工学(土木建築工学など) ⑩ その他理学(数学、生物学など)
- ⑪ 人文科学(文学、史学、哲学など) ⑫ 社会科学(法学、経済学など)
- ⑬ 農学(農学、林学、水産学など) ⑭ 保健(医学、薬学、看護学など)
- ⑮ その他

【ここからは、「甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻」に関する資料を併せてご確認ください。】

Q.5 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻(博士後期課程)が開設された場合、受験を希望しますか。現在の希望に一つだけ○をつけてください。

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する ④ 受験しない

Q.6 Q.5 で①～③を選択した方に質問です。甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻(博士後期課程)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。現在の希望に一つだけ○をつけてください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
- ③ 入学しない

～アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～

甲南大学大学院 自然科学研究科
『環境・エネルギー工学専攻』（仮称、設置構想中）に関するアンケート

甲南大学大学院では、2026年(令和8年)4月に、「環境・エネルギー工学専攻（修士課程・博士後期課程）」の新設を構想しています。

本アンケートは、採用ご担当者の皆様の採用に対する考え方などのご意向をお伺いし、より充実した大学院や研究科・専攻にするための参考資料とさせていただくものです。本アンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

*本アンケートや説明資料に記載されている内容は、すべて予定であり、内容が変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

Q.1 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をご回答ください。

本社(本部)所在地 () 都・道・府・県 ←1つに○

Q.2 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号 1つに○)

- | | | |
|------------|-----------------|------------|
| ① 製造業 | ② 電気・ガス・熱供給・水道業 | ③ 情報通信業 |
| ④ 農・林・漁・鉱業 | ⑤ 建設業 | ⑥ 運輸業 |
| ⑦ 卸売・小売業 | ⑧ 金融・保険業 | ⑨ 不動産業 |
| ⑩ 飲食店・宿泊業 | ⑪ 医療・福祉 | ⑫ 複合サービス事業 |
| ⑬ サービス業 | ⑭ 公務 | ⑮ その他 |

Q.3 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号 1つに○)

- | | | |
|-----------------|-------------------|---------------|
| ① 50名未満 | ② 50名～100名未満 | ③ 100名～500名未満 |
| ④ 500名～1,000名未満 | ⑤ 1,000名～5,000名未満 | ⑥ 5,000名以上 |

次ページに続く

Q.4 貴社・貴団体の過去3ヵ年の平均的な正規社員の採用数について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- ① 0名 ② 1名～5名未満 ③ 5名～10名未満
④ 10名～20名未満 ⑤ 20名～30名未満 ⑥ 30名～50名未満
⑦ 50名～100名未満 ⑧ 100名以上

Q.5 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがでしょうか。(あてはまる番号1つに○)

- ① 増やす ② 昨年度並み ③ 減らす ④ 未定

Q.6 貴社・貴団体では今後、大学院でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えでしょうか。(あてはまる番号すべてに○)

- ① エネルギー工学 ② 環境工学 ③ 物理工学 ④ 応用化学
⑤ 物理学(天文学を除く) ⑥ 天文学 ⑦ 化学 ⑧ 地学
⑨ その他工学(土木建築工学など) ⑩ その他理学(数学、生物学など)
⑪ 人文科学(文学、史学、哲学など) ⑫ 社会科学(法学、経済学など)
⑬ 農学(農学、林学、水産学など) ⑭ 保健(医学、薬学、看護学など)
⑮ その他 ⑯ 学んだ分野にはこだわらない ⑰ 大学院の採用はない

Q.7 アンケートにお答えいただいている方の人事採用への関与度をご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- ① 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
② 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
③ 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

次ページに続く

ここからは、「甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻」に関する資料を併せてご確認ください。

Q.8 貴社・貴団体(ご回答者)は、甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻が、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号 1つに○)

<修士課程> ① 必要だと思う ② 必要だと思わない

<博士後期課程> ① 必要だと思う ② 必要だと思わない

Q.9 貴社・貴団体(ご回答者)は、甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻を修了した学生を採用したいと思われますか。(あてはまる番号 1つに○)

<修士課程> ① 採用したいと思う ② 採用したいと思わない

<博士後期課程> ① 採用したいと思う ② 採用したいと思わない

Q.10 Q.9で「① 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻を修了した学生について採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号 1つに○)

<修士課程>

① 1名 ② 2名 ③ 3名 ④ 4名 ⑤ 5名～9名 ⑥ 10名以上

<博士後期課程>

① 1名 ② 2名 ③ 3名 ④ 4名 ⑤ 5名～9名 ⑥ 10名以上

～アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～

●甲南大学大学院 自然科学研究科『環境・エネルギー工学専攻』（仮称、設置構想中）に関する採用意向調査アンケート

調査対象	企業の採用担当者	
調査方法	メール調査	
調査エリア	大阪、京都、滋賀、東京	
調査対象数	依頼数	14社
	回収数（回収率）	14社（100%）
調査時期	2024年11月	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本社（本部）所在地 ・ 業種 ・ 正規社員の従業員数 ・ 正規社員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 昨年度との比較 ・ 採用したい学問分野 ・ 人事採用への関与度 ・ 甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」の社会的必要性 ・ 甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」修了生に対する採用意向 ・ 甲南大学大学院 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」修了生に対する毎年の採用想定人数 	
調査実施機関	甲南大学	

**甲南大学大学院 自然科学研究科『環境・エネルギー工学専攻』（仮称、設置構想中）
に関する採用意向調査アンケート結果**

Q.1 本社（本部）所在地について、都道府県名をご回答ください。

「大阪府」（57.1%）が最も多い。次いで「京都府」（21.4%）が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
大阪	8	57.1
京都	3	21.4
滋賀	1	7.1
東京	2	14.3
合計	14	100

Q.2 業種について、ご回答ください。

「製造業」（92.9%）が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
製造業	13	92.9
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0
情報通信業	0	0
農・林・漁・鉱業	0	0
建設業	0	0
運輸業	0	0
卸売・小売業	0	0
金融・保険業	0	0
不動産業	0	0
飲食店・宿泊業	0	0
医療・福祉	0	0
複合サービス事業	0	0
サービス業	1	7.1
公務	0	0
その他	0	0
合計	14	100

Q.3 従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

「100名～500名未満」（57.1%）が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
50名未満	0	0
50名～100名未満	2	14.3
100名～500名未満	8	57.1
500名～1,000名未満	1	7.1
1,000名～5,000名未満	0	0
5,000名以上	3	21.4
合計	14	100

Q.4 過去3ヵ年の平均的な正規社員の採用数について、ご回答ください。

「1名～5名未満」(57.1%)が最も多い。次いで「5名～10名未満」(14.3%)が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
0名	0	0
1名～5名未満	8	57.1
5名～10名未満	2	14.3
10名～20名未満	1	7.1
20名～30名未満	0	0
30名～50名未満	1	7.1
50名～100名未満	1	7.1
100名以上	1	7.1
合計	14	100

Q.5 本年度の採用予定数は、昨年度と比較してどうなりますか。

「昨年度並み」(85.7%)が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
増やす	1	7.1
昨年度並み	12	85.7
減らす	0	0
未定	0	0
未回答	1	7.1
合計	14	100

Q.6 今後、大学院でそのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えでしょうか。(複数選択可)

「応用化学」「化学」(92.9%)が最も多い。次いで「エネルギー工学」「環境工学」(78.6%)が続く。

回答項目	回答数	回答率(%)
エネルギー工学	11	78.6
環境工学	11	78.6
物理工学	6	42.9
応用化学	13	92.9
物理学(天文学を除く)	10	71.4
天文学	0	0.0
化学	13	92.9
地学	0	0.0
その他工学(土木建築工学など)	0	0.0
その他理学(数学、生物学など)	2	14.3
人文科学(文学、史学、哲学など)	0	0.0
社会科学(法学、経済学など)	1	7.1
農学(農学、林学、水産学など)	1	7.1
保健(医学、薬学、看護学など)	1	7.1
その他	0	0.0
学んだ分野にはこだわらない	2	14.3
大学院の採用はない	0	0
合計	14	100

Q.7 人事採用への関与度をご回答ください。

「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」(64.3%)が最も多い。

回答項目	回答数	回答率(%)
採用の決裁権があり、 選考にかかわっている	9	64.3
採用の決裁権はないが、 選考にかかわっている	3	21.4
採用時には直接かかわらず、情報や 意見を収集、提供する立場にある	2	14.3
合計	14	100

**Q.8 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻が、これからの社会にとって
必要だと思われますか。**

「必要だと思う」が100%を占める。

< 修士課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
必要だと思う	14	100
必要だと思わない	0	0
合計	14	100

「必要だと思う」が100%を占める。

< 博士後期課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
必要だと思う	14	100
必要だと思わない	0	0
合計	14	100

**Q.9 甲南大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻を修了した学生を採用したい
と思われますか。**

「採用したい」が100%を占める。

< 修士課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
採用したいと思う	14	100
採用したいと思わない	0	0
合計	14	100

「採用したい」が100%を占める。

< 博士後期課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
採用したいと思う	14	100
採用したいと思わない	0	0
合計	14	100

**Q.10 甲南大学大学院 自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻を修了した学生について、
毎年何名程度の採用を想定されますか。**

「1名」採用が78.6%を占める。

< 修士課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
1名	11	78.6
2名	3	21.4
3名	0	0
4名	0	0
5名～9名	0	0
10名以上	0	0
合計	14	100

「1名」採用が85.7%を占める。

< 博士後期課程 >

回答項目	回答数	回答率(%)
1名	12	85.7
2名	2	14.3
3名	0	0
4名	0	0
5名～9名	0	0
10名以上	0	0
合計	14	100

集計結果

自然科学研究科 環境・エネルギー工学専攻	回答数14社	
	修士課程	博士後期課程
毎年の採用想定合計人数	17名	16名